

全日本選抜体重別選手権大会 2日目

大会2日目、男子 81kg 級・90kg 級・100kg 級・100kg 超級、女子 48kg・52kg 級・57kg 級の7階級が行われた。

初日に続き、最終日も第1シードが次々と敗れるという波乱があり、フレッシュな選手の初タイトル獲得もあった。

【男子】

81kg 級

この階級は第一人者の永瀬貴規がケガで不在。誰が台頭してくるのか、注目が集まった。決勝の舞台に上がったのは、この冬のGSパリを制した藤原崇太郎（日本体育大2年）と、昨年の講道館杯の覇者・佐々木健志（筑波大4年）。GSエカテリンブルグでも決勝で顔を合わせた二人の対戦は、エカテリンブルグ2位の佐々木に軍配が上がった。

優勝：佐々木健志

「ついこのあいだのグランドスラムで負けて、今回は何としてでもリベンジしようと考えていました。藤原選手とはこれからも良きライバルとして戦っていきけるよう頑張ります」

90kg 級

国内で1年ぶりに畳に上がるベイカー茉秋（日本中央競馬会）。向翔一郎（ALSOK）は昨年本大会で優勝して以来、講道館杯、今年のGSパリと優勝し好調。さらにGS東京を制した長澤憲大（パーク24）が加わり激戦が予想された。その戦いを制したのは、長澤。向を倒して決勝に上がったベイカーから内股で「技あり」を奪い優勝を決めた。

優勝：長澤憲大

「最後、（ベイカーを）投げて終わったので良かったと思います。昨年の世界選手権は個人戦ではなく団体戦代表で悔しい思いをしました。その悔しさがあつたから今日まで頑張ってきたと思います」

100kg 級

この階級の顔、羽賀龍之介（旭化成）、ウルフアロン（了徳寺学園職）の二人

が欠場。若手の飯田健太郎（国士舘大2年）に注目が集まったが、飯田は初戦で大内刈りをきれいに返され、一本負け。決勝の舞台に上がったのは熊代佑輔（ALSOK）と、90kg級から一つ階級を上げてきた西山大希（新日鐵住金）。ベテラン二人の対決は反則勝ちで西山の100kg級初優勝となった。

優勝：西山大希

「90kgでは減量がきつくなり、昨年階級を上げました。代表争いに加わるにはこの大会で優勝することが絶対条件だったので、勝つことができ嬉しい。まだ100kg級の戦いに対応できていないが、欠場している二人とベストな状態で戦いたい」

100kg 超級

王子谷剛志（旭化成）、原沢久喜（日本中央競馬会）という二強に対し、影浦心（日本中央競馬会）、小川雄勢（明治大4年）がどう挑んでいくのか、注目が集まった。決勝の顔合わせは、王子谷から反則勝ちを奪って勝ち上がった小川とやはり反則勝ちで影浦を倒した原沢。勝負はGSにもつれ込み、ここでも「指導」3つの反則勝ちで、小川が初優勝を飾った。

優勝：小川雄勢

「今日は挑戦者の気持ち、前に出る気持ちを持って戦いました。去年は1回戦で敗退し、こんなに力の差があるのかと悔しい思いをしました。今年は去年を少しは超えることができたかと思えます。この階級にはリネール選手（仏）がいますが、彼を超えないと世界一という僕の目標を超えることができません。頑張ります」

【女子】

48kg 級

昨年の世界選手権で頂点に立った渡名喜風南（パーク24）と、リオ五輪銅メダリストの近藤亜美という二強がいるこの階級。その中で勝ち上がってきたのは、昨年の講道館杯3位の山崎珠美（自衛隊体育学校）と、同大会優勝の遠藤宏美（ALSOK）。戦いは、山崎の気迫が勝り、GSで放った小外掛けが「技あり」に。涙の初優勝となった。

優勝：山崎珠美

「今日は自分の柔道をしようと思いがけました。遠藤さんにはずっと負けていた

ので勝ててうれしい。これまで優勝を目指してやってきたものの勝てない時期が続き、たくさんの人に支えられてきました。目の前の試合を全力で頑張りたいです」

52kg 級

世界のツートップ、志々目愛（了徳寺学園職）、角田夏実（了徳寺学園職）に加えて現在、注目度ナンバーワンの女子選手・阿部詩（夙川学院高3年）が顔をそろえた。大会前日の記者会見で同席した志々目と阿部。それぞれに「自分の中で相手に勝る点は？」と聞かれると「経験値」（志々目）、「若さ」（阿部）と譲らない。大会本番でモノを言ったのは経験値だった。

阿部は準決勝で角田に巴投げで「技あり」を奪われて敗退。決勝はその角田と志々目というブダペスト世界選手権決勝と同じ顔合わせとなった。その時は敗れた角田が今回、阿部を破ったのと同じともえ投げで志々目を下し、うれしい初優勝を決めた。

優勝：角田夏実

「何度も志々目さんには負けているので、今回こそリベンジしようと頑張りました。（勝利を決めた巴投げは）世界戦の後、昨日までかからなくなっていたので、封印しようかと思っていたんですが。今日もうまく行きました。もう一度、金を取りに行きたいです」

57kg 級

昨年の世界選手権、今年のG Sパリと決勝の舞台に確実に上がっている芳田司（コマツ）、うまさがるベテラン宇高菜絵（コマツ）、そして世界ジュニアを制し、昨年本大会2位の若手・舟久保遥香（三井住友海上）と見所の多いこの階級。決勝には芳田を倒した舟久保、宇高を倒した玉置桃（三井住友海上）の同門対決となった。互いをよく知る二人の対決はG Sにもつれ込むが、最後は「技あり」を奪って先輩・玉置が10分近い戦いに幕を引いた。

優勝：玉置 桃

「舟久保は後輩なので、何が何でも勝ちたいと覚悟を持って戦いました。この勝利がまぐれと言われたいよう、ここからまた頑張っていきます」